News＆Topics

町内会･自治会長あて文書が市のホームページで確認できるようになりました

市民協働推進課では，市各課からの文書を取りまとめ，月１回，町内会・自治会長あて送付しています。この文書の発送の有無と内容が，市のホームページで確認できるようになりました。ホームページでは，一部地域のみに発送した文書もご覧いただけます。

会長あて文書は，毎月７日頃に掲載します。市ホームページ内を検索する場合は，ホームページトップの検索ボックスに「 町内会長・自治会長あて文書 」または「１０３７２５０（広報ＩＤ）」と入力してください。

また，回覧担当者あて文書も，市ホームページに毎月２０日頃掲載しています。こちらは，「 回覧物について 」または「１０１８３６５（広報ＩＤ）」と入力してください。

【好摩地区】地域ぐるみで　まちを明るく

好摩駅前イルミネーション装飾事業

好摩地域の活性化，地域内の交流や連携の強化を目的とした「イルミネーション装飾事業」が，好摩駅前で開催されています。この事業は「好摩地区まちづくり計画書」に定められ，好摩地区まちづくり協議会（畠山和夫会長）が，毎年冬の時期に行っているものです。今年度は地元の小学生の冬休みに合わせ，12月５日に16名の参加でクリスマスツリー等の飾り付けを行いました。

同駅の利用者からは「夜間，駅が明るいのでとても良い。毎日通るのが楽しくなる。」との声が寄せられています。また，好摩一自治会の伊五沢勉会長は，イルミネーションの実施について，「子どもから大人まで地域ぐるみでまちが明るくなり，活性化に繋がればいいと思う。」と述べていました。点灯時間は，16時30分頃から23時45分。実施期間は３月中旬まで。

イベント・講座情報　あなたは「ＬＧＢＴ」について知っていますか？

～男女だけではない，多様な性～

皆さんが「性別」と聞いて思い浮かべるのは男性と女性だけでしょうか？また，人が好きになるのは異性が当たり前ですか？

近年，テレビや新聞等で「LGBT」という言葉を目にします。LGBTとは，好きになる性別（恋愛対象）が同性の人や，体の性別と心の性別が異なっている人など，性的少数者を表す総称の１つであり人口の８～10%いるといわれます。

L	ﾚｽﾞﾋﾞｱﾝ	女性を恋愛対象とする女性
G	ｹﾞｲ	男性を恋愛対象とする男性
B	ﾊﾞｲｾｸｼｭｱﾙ	女性も男性も恋愛対象
T	ﾄﾗﾝｽｼﾞｪﾝﾀﾞｰ	体と心の性が異なる人

私たちの誰もがもっている性的指向（恋愛感情がどの性別に向いているか）や性自認（自分が感じている性別），表現する性別（服装や髪型等）は，顔や声，性格などが人それぞれであるように十人十色です。

性のかたちが様々であることを理解し，偏見や差別がなく，一人ひとりが尊重され，自分らしく生きられる社会にしていきましょう。

盛岡市ではもりおか女性センターと共同で，性の多様性について理解を深めることを目的に**「性の多様性を理解するためのガイドブック」**を作成しました。ご希望の方は，下記担当までお問合せわせください。なお，このガイドブックは市ホームページでもご覧いただけます。

【ＬＧＢＴイベント情報】

もりおか女性センターでは，LGBTの理解を深める映画会＆トークを開催します。

映画を通して知ろう！
LGBTQ＋(ﾌﾟﾗｽ)のT（ﾄﾗﾝｽｼﾞｪﾝﾀﾞｰ）のこと

日時：令和４年2月26日（土）13：30～
会場：プラザおでって大会議室
問合せ：019-604-3303

申込フォーム

出前講座も随時実施しますので，ご興味のある方は下記担当までお問合せください。

担当：盛岡市男女共同参画推進室　☎019-626-7525

※地域協働かわらばん"つながるわ"は令和３年度から偶数月発行となりました。

回覧										

つながる わ

Vol.82

輪・和・WA…

発行：盛岡市市民部市民協働推進課
〒020-8530　盛岡市内丸12-2
TEL：019-626-7535（直通）
E-mail：kyodo@city.morioka.iwate.jp
（令和４年２月発行）

町内会と大学生による座談会

令和３年12月22日（水），盛岡市町内会連合会と岩手大学まちづくりサークルNPCNの学生による座談会「未来につなぐ地域づくり」が行われました。

この座談会は，担い手不足を課題としている町内会・自治会と，地域づくりに関心を持ち，活動をしている学生が，地域づくりに対する想いを共有することで，年代の壁をこえて，共に「盛岡」の地域づくりに取り組む機運を高めることを目的として，市が主催したものです。

座長に，岩手大学人文社会科学部・まちづくりサークルNPCN顧問の五味教授を迎え，盛岡市町内会連合会から小枝指会長，まちづくりサークルNPCNからサークル代表を務める岩手大学３年生の佐々木さん，同サークル２年生の照内さん，１年生の今川さんが話し手として参加しました。

座談会では，地域と学生の双方の目線から，地域づくりへの率直な想いや町内会についての実感などが語られました。

座談会の概要を，次のページに掲載するほか，その動画を市公式YouTubeでも公開しております。

▽市公式YouTube
（前編）　（後編）

※市公式YouTube動画は予告なく削除される場合がありますので、お早めにご視聴ください。

令和３年度盛岡市担い手養成講座

未来につなぐ地域づくり

この座談会は，盛岡市町内会連合会会長と盛岡を盛り上げる活動を行うサークルに所属する学生が，地域づくりに対する想いを共有しながら，意見交換を行ったものです。

主催：盛岡市，盛岡市町内会連合会，玉山地域自治会連絡協議会

地域活動に興味を持ったきっかけ

五　味：まちづくりサークルに入ろうと思ったのは，どうしてですか？

今　川：高校生の時に参加した遠野市でのワークショップがきっかけです。そこで，地域の問題が本当に深刻になっていると間近に感じました。その後も，まちづくりの活動に参加していて，大学に入っても活動は続けたいと思っていたので，このサークルに入りました。

照　内：１年生の頃はコロナで一人ぼっちで，まずは友達が欲しいというところから始まって，元々地域政策に興味があったので，このサークルに入ってみようと思ったのが，最初でした。

五　味：前から地域に興味があったと言ってましたが，どうして地域に興味があったのでしょうか？

照　内：地元の北秋田市は，過疎や少子高齢化といった問題が全国より進んでいる場所でした。日頃からそういう問題が目に付き，何かできることはないかと思っていました。

座長
岩手大学人文社会科学部
教授 五味 壮平 さん
（東京都出身）

私の住む盛岡はこんな場所

小枝指：盛岡は，信奉的な山があって，街中に大きな川や小さな川があるなど自然環境が良い。田舎だけど都会の部分もあり，良いまちだと思います。自分の住んでるところが良いところだとか，住み続けたいと思わないと，良いことをやろうとはなりません。

五　味：佐々木さんは盛岡出身ですが，盛岡をどう思いますか。

佐々木：私は，盛岡の人の温かさを感じています。私も，刺激的なものがたくさんある都会に憧れる気持ちを持っているけれど，盛岡では穏やかな自然を感じたり，些細な変化を感じる感性が磨かれると思います。そういった心のゆとりが盛岡の住みやすさや安心感に繋がっていると思います。それが盛岡の魅力の一つだと感じるようになりました。

盛岡が抱える課題

五　味：小枝指さんとしては，今日の３人のような将来を担う若者たちがたくさんいて希望がみえると思いますが，一方で，今，どういう課題を感じていますか。

小枝指：少子高齢化と言われて久しいです。最近身近に感じるようになりました。私の家もそうですが，子供はずっと首都圏で生活しています。周りを見ても，空き家や一人暮らしが多くなっています。孤独を感じている人を地域に引っ張り出して，支え合う，触れ合う場を作っていかなければと思っています。また，担い手がいない，参加者が減ったという課題がどこでも聞かれますが，なぜ来ないのか，やり方に問題ないか，気付いて取り組むことが大事だと思います。

学生と地域とのつながり

五　味：学生の皆さんは地域づくりや地域そのものに関心があり，盛岡も大好きということですが，佐々木さんは町内会との繋がりを実感することはありますか。

佐々木：小・中学生までは子ども会があったので町内会との繋がりを感じましたが，今は感じられていないというのが正直なところです。

今　川：年齢が上がっていくにつれ，勉強や部活で忙しくて，地域との関わりが薄れてきたとも思いますが，私の住む地域には大きなお祭りがあり，その時になるとみんな戻ってきて，お祭りに参加すると「やっぱりいいよな」とその地域の良さを改めて感じることはあります。

話し手
盛岡市町内会連合会
会長 小枝指 好夫 さん
（盛岡市出身）

話し手
岩手大学まちづくりサークルNPCN
3年 佐々木 みらい さん
（盛岡市出身）

五　味：照内さんはいろいろな形で地域に関わる一方で，今はアパートに住んでいて，近くの人との繋がりはありますか？

照　内：全然。高松に住んでいて，地域には学生しかいない感覚です。地域の方と会うことはないし，地元だと地域の方に挨拶していましたが，盛岡に来てからなくなったので，大きな街に来たと感じています。盛岡は学生が多く，ずっと住むわけではないので，町内会に参加しなくていいと思う人は一定数いると感じます。

五　味：私も，自分のマンションの住民とは関わりがない生活を送っていて，何と矛盾しているんだと思っています。地域づくりへの関心と自分が生活する地域とが乖離している。そこが結び付くと大学と地域の関係も変わると思います。でも，近いがゆえに構えてしまう部分があるのかな，なんて想像するのですが，学生と地域の関わり方は，昔と比べて変わっていますか？

小枝指：高松は共同住宅が多く，何年かで引っ越す人が多い。そうすると，ゴミ出し一つにしても，地域で出し方が違うので，トラブルになることが多い。

五　味：本人を知っていて，どういう人か分かっていれば，嫌な気はしないと思いますが，知らないと，また学生が…というイメージが出てしまうのだろうと思います。
例えば，地域と学生の間に，お互い顔を知っててちゃんと挨拶をするという関係ができたら，気持ちいいですよね。そんな関係を作ることをできないかと考えるのですが，何か良いアイディアはないですか。

小枝指：最近寂しいと思うのは，子どもが減り，町内の運動会をやらない地域が増えてきたことです。運動会は，幅広い年代が一緒の場所で和気あいあいと楽しめます。何か地域で交流できることをやりたいです。

佐々木：私の地元でも運動会があり，ここに来れば友達に会えるから参加する，ということがありました。一つのコミュニティになっていたと思います。

話し手
岩手大学まちづくりサークルNPCN
2年 照内 雄貴 さん
（秋田県北秋田市出身）

まとめ

五　味：若者がどういう感覚で街を見ているか，どういうことに関心を持っているか。また，どういうことが地域に起きていて，どこに問題があるか。そして，どうしたら学生と地域の距離を縮められるかという意見交換でしたが，皆さんいかがでしょうか。

照　内：私たちの記憶の中で，町内会と関わっていた記憶が小・中学生で止まっていると思います。大人に近い若者，高校生や大学生が関わっていくことができる仕組みが町内会の中にあれば，若者が参加できて，大人になっても地域に関わるというところに繋げることができると思います。

五　味：町内会という単位を今後どのくらい大事にしていくか，そういうことを考える必要もあると思います。

小枝指：町内会に学生も含め，幅広く，いろんな分野の人に参加してもらうことで，関係が広がると思います。顔なじみになって，冗談や文句が言えるくらいの仲になれたらいいと思います。

五　味：何らかのかたちで，学生も一緒に地域に関わるようになれば，日本でもなかなかない地域づくりに繋がっていくと思いました。（終わり）

話し手
岩手大学まちづくりサークルNPCN
1年 今川 そら さん
（北上市出身）